

特集論文の公募のお知らせ

2026 年度日本選挙学会年報編集委員長

清水唯一朗

2024 年度日本選挙学会査読委員長

岡田浩

○特集「混合研究と学際研究」

2026 年度年報編集委員会は、『選挙研究』42 巻 1 号（2026 年 6 月末刊行予定）の特集として「混合研究と学際研究」をテーマとすることを決定いたしました。この特集は、編集委員会からの依頼論文と、会員のみなさまの投稿論文から構成されます。

選挙学会では、定性的研究と定量的研究が共存し、相互に刺激し合いながら研究が進められてきました。昨年の大会を見ても、方法論、制度・法律、比較、歴史、メディア、議会、社会心理、地方と、実に多様な部会が立ち、それぞれに磨き合う特徴を持って運営されてきました。近年では両者を統合した混合研究が進展し、政治学のみならず、社会学、メディア研究、計算社会科学などとの学際的対話も深まっています。

こうした学会のアドバンテージをさらに展開していくことを目指し、本号では混合研究、学際研究による選挙研究論文を広く募集します。本号が定性的・定量的研究の融合や異分野の知見を活かした研究の可能性を議論し、選挙研究の新たな方向性を見出せる機会となれば幸いです。会員のみなさまからの積極的な投稿をお待ちしております。

投稿締切日 2025 年 8 月 29 日（金）

投稿要領、執筆要領については以下のページをご参照ください。

<https://www.jaesnet.org/research/publications/index.html>

○参考：査読スケジュールについて

現在、日本選挙学会は『選挙研究』論文投稿システムを通じて、投稿を受け付けています。受付終了後、査読委員会で審議を行い、匿名査読者の選定ならびに査読依頼をしております。したがって、当該論文の完成度にもよりますが、投稿から最初の査読結果が戻るまでに要する時間はおおよそ 3 ヶ月です。修正・再査読となった場合、査読結果に応じて再投稿がなされてから、最終結果が出るまでに 2 ヶ月ほど要します。修正・再投稿にかかる時間によりますが、最初の投稿から最終結果の確定まで、6 ヶ月ほどの時間を見込んでください。

したがって、今回の特集に応募して締切日までに投稿すれば、2026 年 2 月までに査読のプロセスを終えて 42 巻 1 号に最終稿を入稿できることになります。ただしこれは査読および再投稿が円滑に進んだ場合の想定ですので、必ずしも 42 巻 1 号への掲載が保証されるわけではないことをご理解ください。

なお、査読を経て掲載が決定した論文につきましては、年報編集委員長名で掲載決定の証明書を発行することが可能です。